

◆ 【全国発信記事】 名古屋支部

体験乗船を見送り

子どもたちに記念品を贈呈 — 四日市港社会見学体験乗船 —

船員の確保・育成を推進し、子どもたちに海に親しんでもらうための活動「四日市港社会見学体験乗船」。本組合ではこの活動を、伊勢湾フェリー株式会社のフェリーを利用し、2013年から毎年開催してきた。乗船中は、船の仕事や港の仕事を説明するほか、ロープワークなども実践し、海や船員の仕事に関心を持ってもらえるよう啓蒙活動も行っている

今年はコロナ禍を踏まえて

体験乗船の実施にあたっては、参加小学校を絞り、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、中部運輸局、四日市市・同教育委員会、四日市港管理組合や中部海事広報協会などの後援、四日市ポートサービス株式会社の協力のもと、昨年も実施することができたが、今年についてはデルタ株への懸念もあり、開催を中止することとした。

今年も体験乗船を心待ちにしていた子どもたちが多く、乗船はできなかったが、参加を予定していた楠小学校と橋北小学校の児童に海の楽しさや船・船員の魅力を伝えるべく、10月13日に両校を訪問。後援諸団体をはじめ、太平洋フェリー株式会社・伊勢湾フェリー株式会社・早駒運輸株式会社の協力を得て、ロープワークオブジェ（支部作成）、DVD、アポロキャップ、ペーパークラフトなどの記念品を贈呈した。

贈呈式には、竹野兼主四日市市議会議員（組合政治参与）も駆けつけ、海と船の魅力と重要性、漁業や魚食文化について触れ、子どもたちからは「オブジェを参考にロープワークの練習をしてみたい」「給食にシイラのムニエルが出る」などの話題があがった。